

※試験期間に筆記試験を実施した。持ち込み一切不可とするかわりに、事前に問題の出題形式（一問一答式10問・記述式4問中2問選択式であること）と記述式の問題をアナウンスした。

### ◇試験問題（試験時間 90 分、持込不可）

【問題 1】 次の①～⑩の問いに答えなさい。

- ① 明治初期に流行した、書生たちの政治家・役人への立身出世をうたったものを何というか？
- ② 工場法案の準備のために工場や労働者の実態を調査した農商務省による報告書を何というか？
- ③ 明治 35 年に邦訳が出版されたカーネギーの著書『○○の帝国』。○○には何が入る？
- ④ 明治 30～35 年に『読売新聞』に連載された小説『金色夜叉』の著者は誰？
- ⑤ 標準語教育のために、方言を使った者が、罰として首にぶら下げさせられたものを何というか？
- ⑥ 安定した財産や職がなければ安定した（道徳）心も持てないということ。恒産なくして何なし？
- ⑦ 身分や財産などによる制限を設けず、すべての国民（成年者）に選挙権を与える選挙制度のことを何というか？
- ⑧ エンゲルスの著書『空想から○○へ』。○○には何が入る？
- ⑨ 『青鞥』の、平塚らいてうによる創刊の辞として有名。「元始女性は○○であった」。○○には何が入る？
- ⑩ 青鞥社に集った女性たちは、差別的なまなざしを向けられつつ世間から何と呼ばれたか？

【問題 2】 次の 4 つのテーマの中から 2 つ選んで論じなさい。ただし、講義で扱った内容を踏まえたものとすること。問題番号順どおりに答えなくてもよいが、冒頭に選択した問題番号を示してから論述をはじめること。

- ① 儒学と明治維新
- ② 中江兆民の思想
- ③ 社会問題とその解決法
- ④ 20 世紀の「青年」

### ◇解説

講義で配付した資料と、まとまった段階で配付した「確認プリント」をもとに準備していれば難なく解ける問題である。

【問題 1】を解く際は漢字の書き間違いに要注意。【問題 2】については、問題文にあるように、講義で扱った内容を踏まえた論述であること。論理的に上手に話を展開できていれば高評価となる。なお、問題を事前にアナウンスしており、試験にむけての準備期間があった。その準備期間において各自調べたことを付け加えたりしている場合、評価（加点）の対象となる。

- 【問題 1】 ①書生節 ②『職工事情』 ③実業 ④尾崎紅葉 ⑤方言札 ⑥恒心 ⑦普通選挙 ⑧科学 ⑨太陽  
⑩「新しい女」

## 【問題2】

①：第2回と第4回に配付した講義資料を参照（第3回目の授業は第2回資料の続き）。儒学の政治思想として「徳治主義」「君臣義合」「仁政」「放伐」「正名」「天に二日なく、民に二王なし」「王覇」についてとりあげた。そうした枠組みから眼前の徳川政治体制や西洋「文明」がどのように捉えられていたのかについて論述できていればよい。

②：第4回講義資料を参照。しばしば「東洋のルソー」と呼ばれる中江兆民による「リベルター・モラル」論、『社会契約論』の翻訳中断問題、また、「有限委任」「無限委任」、「恢復的の民権」「恩賜的の民権」、憲法点閲の主張について扱った。

③：まず、設問の「社会問題」とは何か——この講義で扱った範囲であれば、第6回および第11回講義資料でとりあげた「貧富の懸隔」問題や河上肇『貧乏物語』について言及し、「解決法」として、慈善事業をめぐる社会主義者の見解やマルクス主義へとむかった河上肇の見解についてまとめるか、第12回講義資料でとりあげた母性保護論争について言及し、与謝野晶子、平塚らいてう、山川菊栄の見解についてまとめてもよい。

④：第8回講義資料を参照。「煩悶」青年の登場、「上京熱」「都会熱」に浮かされる地方（田舎）青年、新しい教育論の台頭として西園寺公望の「第二次教育勅語案」や谷本富による「新教育」の提唱、「高等遊民」の登場や実業学校の整備について扱った。20世紀を迎える頃（明治後期）の青年を取り囲む状況や教育論についてまとめられていればよい。

以上